

ご用命・お問い合わせ先
アペックス産業株式会社
 電話 03-3455-6474
 F A X 03-3455-6558

〈詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください〉
 URL <http://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。
 キーリトリ線

APEX CLUB

アペックス産業株式会社

'09/11
第28号

『APEX CLUB』

発行 2009年11月1日(通算28号)

発行所 アペックス産業㈱「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4

電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558

ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>発行人 元木 貢 (編集委員) 山口力広、高塚章夫
佐々木 健

(事務局) 田口久美

ギャラリー

写真(カワセミ)

林 滋生

寄生虫学、衛生動物学、熱帯医学研究者

★プロフィール

大正11年 東京府下豊多摩郡生まれ
 昭和22年 東京帝国大学医学部卒業
 昭和25年 東京大学助手、伝染病研究所勤務
 昭和35年 東京大学助教授、米国ジョンズホプキンス大学公衆衛生学部留学
 昭和39年 WHOフィラリア研究班疫学／寄生虫専門家
 昭和41年 横浜市立大学医学部教授(寄生虫学)
 昭和47年 横浜市立大学医学部長
 昭和50年 国立予防衛生研究所寄生虫部長
 昭和58年 国立予防衛生研究所所長
 昭和63年 定年退官(名誉所員)

※主な研究

- ☆東京大学伝染病研究所時代はマレー糸状虫症の発見、フィラリア症の疫学とコントロールの研究、蟻虫感染の疫学と駆除の研究。
- ☆横浜市大医学部時代は宮崎肺吸虫症の発見、その疫学と治療の研究。
- ☆予研(現国立感染症研究所)時代は日本住血吸虫、土壤伝播寄生虫の感染制御に関する研究



〈カワセミ雄成鳥〉



〈元気でたわむれるカワセミの若鳥〉



〈二番目の子〉

★作者寸言

横浜市最南部を流れているイタチ川で今年6～8月の間に撮影したカワセミです。

〈カワセミ雄成鳥〉6月末ごろ撮影。今年6月初めに孵化した3羽の雛の子育ては、雄親が担当していました。1ヶ月近くで頭部や翼に羽の乱れが見え、6月末になると奮闘のあげく見る影もないほどやつれて気の毒なくらいでした。それでも8月末ごろにはかなり回復してホッとしました。

〈元気でたわむれるカワセミの若鳥〉8月初めの撮影。3羽の孵化後の餌の摂り具合で若干育ちに遅速が生じるが、いずれも若いうちは足が黒色を帯びています。(成鳥は真っ赤)。一番成長の早い上の子と一番下の子は雄で、二番目は雌でした。もうそれぞれ自分で餌の小魚を漁ることが出来ますが、一番下はまだ親に甘えて傍に寄っては餌をねだっていました。

〈二番目の子〉雌若鳥。下嘴の一部、真ん中あたりに赤味が現れてきたので雌と分かります。成熟につれて上嘴は黒いが下嘴は全面赤くなります。カワセミは瑠璃色の羽が美しく、止まっている枝から水面にダイビングして餌をキャッチする様がダイナミックなので、痛い脚を引き摺り、重いカメラを担いで撮影に通いました。お陰で年寄りには良い運動になりました。カワセミに感謝しています。

むし籠

都会のハチ事情

当社は港区を中心にハチ駆除活動を行っています。都心とはいえ、皇居、大使館、公園などに多くの森林、樹木があり、多くの種類のハチが生息しています。

依頼の中で多くを占めるのが、スズメバチとアシナガバチです。スズメバチの中で



はコダカスズメバチが多く、生け垣や庭木、軒下に丸い外皮に覆われた二十センチほどの巣を作ります。

一方、アシナガバチの巣はスズメバチのように外皮に覆われておらず、一枚の巣が、釣り鐘のようにぶら下がる形で、軒下や樹木などに作られます。また、ミツバチの仲間であるマルハナバチは攻撃性が低く、直接素手で捕まったりしない限り、刺されることはありません。普段は土中に営巣しますが、時には電信柱上部の交換機部分や、家屋の壁の中に巣を作ることがあります。

ハナバチというだけあって、花の蜜を巣に溜め込んでいるため、壁の中の巣を取り出すと、あたり一面に甘い香りが立ちこめます。

以前、ミツバチの巣を回収した時、もたつぷりの蜂蜜が食欲をそそりましたが、殺虫剤がかかっていたため、味見出来なかったのが残念でした。写真はマンション四階の浴室排気管の中に営巣したスズメバチです。

NHK「ゆうどきネット ワーク」の取材に協力

某日、NHK総合テレビ「ゆうどきネットワーク」の取材に協力してほしいという連絡が入りました。

テーマは「急増するトコジラミの被害対策」で、午後四時五十分から生放送とのこと。二時半にディレクター、カメラマン、リポーターの三人が来社。さっそくシナリオづくりに入りました。小型デジタルカメラで撮影し、ノートパソコンからPHSでスタジオに送信します。ディレクター氏が携帯電話で連絡をとりながら放送が開始されました。



昔は大型中継車が来る取材でしたが、今ではかばん一つの便利な時代になりました。とはいえ放送中のスタッフの緊張感に変わりはなく、ご苦労が察せられました。番組の一部が当社ホームページに掲載されています。

コバエ



おじゃま虫

Q&A

Q 室内に小さなコバエが飛んでいるのですが、どうしたらいいでしょうか？

A 一般家庭では、厨芥や残飯などに、ショウジョウバエやノミバエが発生することがあります。ショウジョウバエは発酵した果物や飲料、ノミバエは腐食した肉類など、さまざまな残飯、または汚物などを餌とします。したがって、未処分の生ゴミがないかなどのチェックを行い、発生源を処分することが重要です。

Q 生ゴミなどの処分や、すみずみまで掃除したのにコバエが飛んでいるのは？

A 流しや風呂場の排水口に溜まったヘドロから、チョウバエが発生することがあります。対策としては、排水口に溜まったヘドロを掃除して、発生源を除去してください。また、室内の植木にある堆肥から、クロバネキノコバエやニセケバエが発生することがあります。鉢植えの周りに常にコバエが飛んでいる場合は、堆肥の交換や、水受けを掃除することによって防ぐことが出来ます。これらコバエ類は成虫については、市販のエアゾール剤を直接噴霧することによって駆除出来ますが、常に日常の掃除に気を付けて、発生を予防することが大切です。

虫めがね

60th
おかげさまで60年

当社は本年十二月二十一日に創立六十周年を迎えます。これもひとえに得意先各位

と当社にご協力いただいている取引先各位、六十年の間に当社で働いた社員の皆さんの努力の賜物と感謝申し上げる次第です。

創業者である元木三喜男が、終戦直後の昭和二十二年に、たまたまGHQ本部の駐軍場で、米海軍の昆虫学者とお会いしてペストコントロールという仕事を知り、彼の指導のもとに、昭和二十四年にアペックス産業を設立しました。

以来、グアム島を皮切りに数度にわたる青酸ガス燻蒸による中毒事故、船舶燻蒸からの撤退、神戸支店、横浜支店の暖簾分け、東京オリンピックの害虫駆除受注、オイルショック時の人手不足、社屋の火災、新社屋の建設、新卒採用の開始など、幾多の試練とエポックメイキングな出来事を経験してきました。

この六十周年を契機に、お客様に感謝の意を表するとともに、内部充実を図り、百周年に向けて左記の企業理念を策定いたしました。

【企業理念】

- 一、ペストコントロールを核として、環境衛生の改善を通じ快適な社会の創造に貢献します。
 - 一、社会貢献と企業利益の調和をはかり、健全な事業の発展に努めます。
 - 一、人の健康や環境への負荷を最小限にとどめる方法で業務を遂行します。
 - 一、科学的な根拠に基づいて業務を遂行します。
- 今後とも引き続いてご愛顧とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



創業当初の本社

現本社